

敬学会賞第三十九回入選作品

Campus[®]

NOTEBOOK

Campus notebooks contain the best ruled foolscap suitable for writing.

A 普通横罫



敬学会研究

ノート

602 小山英宏

遺

跡

調

へ

日

程

回	研究指導日	内 容	指導者
1	4月24日 (水) 5	オリエンテーション	担 任
2	5月8日 (水) 5	テーマ決定、研究計画を書く。	ニ
3	5月15日 (水) 5	テーマと研究方法、研究計画の指導。	テーマ別指導者
4	6月12日 (水) 5	資料をさがし調べる。	ニ
5	6月25日 (火) 5	ニ	ニ
6	7月10日 (水) 5	ニ	ニ
7	7月17日 (水) 5	まとめの形式、ノート書き方の指導。	担 任
8	9月4日 (水) 5	研究内容を見てもらい、清書。	テーマ別指導者
9	9月25日 (水) 5	ニ	担 任
	9月30日 (月) 放課後まで	学級担任へわたす。	テーマ別指導者
	10月7日～9日 (月) (水)	審 査	
	10月11日 (金)	作品展示開始	係
10	10月16日 (水)	研究発表会	全職員

目

次

日程

1. (e-j)

嶋遺跡

25~27

目次

2

大越古墳

28~29

研究計画

3~4

土矢倉古墳

30~33

研究記録

5

水上遺跡

34~35

調べたこと

宮下遺跡

36~37

古墳

6~8

吹浦遺跡

38~40

住居

9~11

森越遺跡

41

貝塚かま跡

12~13

まとめ現地調査

結果

42

高原古墳

14~15

出土した土器

43~44

上原古墳

16

2発中の遺跡

45~46

谷柏古墳群

17~19

1,2の感想

47

衛守塚古墳

20

本人の名前

:

菅沢古墳群

21~23

全体の感想

48

牧野遺跡

24

敬学会 研究計画

6年2組 小山英宏

研究題目 遺跡調べ教科 社会

1. 研究をはじめたわけ

去年もやったんだけど、どうくつなどが主だったので今回は、住居あとなども見たいと思ったからです。

2. 調べたいこと

予 想

(1) 住んでいるたて物。 たて穴式住居。

(2) どんな物を食べていたか 木の实や肉、魚。

(3) 1つの住居に何人住んでいたか。 約4人。

(4) どんな道具を使っていたか。 石器や土器。

(5) どんな形の古墳が多いか。 円墳か、方墳

(6) 石室の中には、どんな 宝石、土器

な物をいっしょに入れたか。 鉄製品

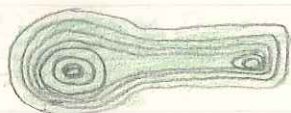
[illegible]

敬 学 会 研 究 記 録

月 日	研究した内容	先生からの指導
5・12	資料集め	
5・15	：	
5・16	：	
5・26	：	
6・9	：	
6・10	：	
6・11	：	
6・16	調 査	
6・23	：	
6・24	資料集め	
6・25	：	
6・30	：	
7・7	調 査	
7・10	資料集め	
8・10	：	
8・11	：	
8・12	：	
8・15	調 査	
8・16	：	
8・22	資料集め	
8・23	：	
9・4	まとめ	
9・13	：	
9・24	：	
9・25	：	
9・26-29	：	
9・30	：	

研究の実際

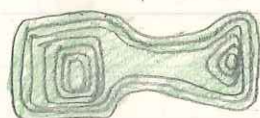
古墳のいろいろな形①(予想の古墳)



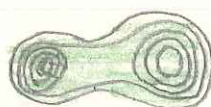
前方後円墳



円墳



前方後方墳

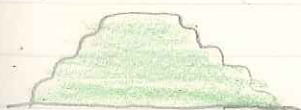


双円墳



方墳

3世紀ごろから7世紀
にかけて作られた天皇
や豪族の墓です。



古

墳

古墳は、土を高くもり上げた墓で、四世紀初めごろ、近畿地方を中心に発達した。

古墳が大きければ大きいほど、生前のせいかが大きいいことを表す。

古墳の内部

古墳内部のまいそうしせつを石室と言う。石室は初め、たて穴式だったのがのちに横穴式になった。

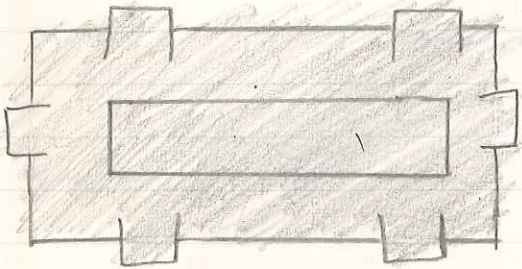
また、棺には、石棺、木棺、陶棺などがあり、人をまいそうする時は、いろいろなまいそう品を入れる。

古

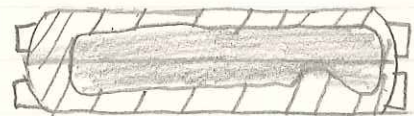
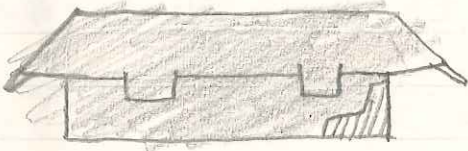
墳

石 棺 の 形

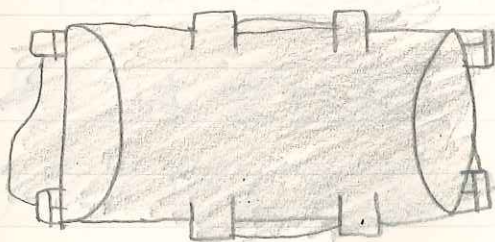
家 形



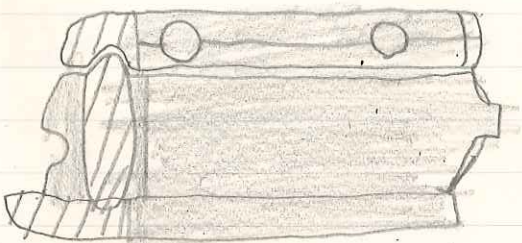
割 竹 形



長 持 形



石棺は、石で
できた棺で、その
他に木棺などが
あった。



住

居

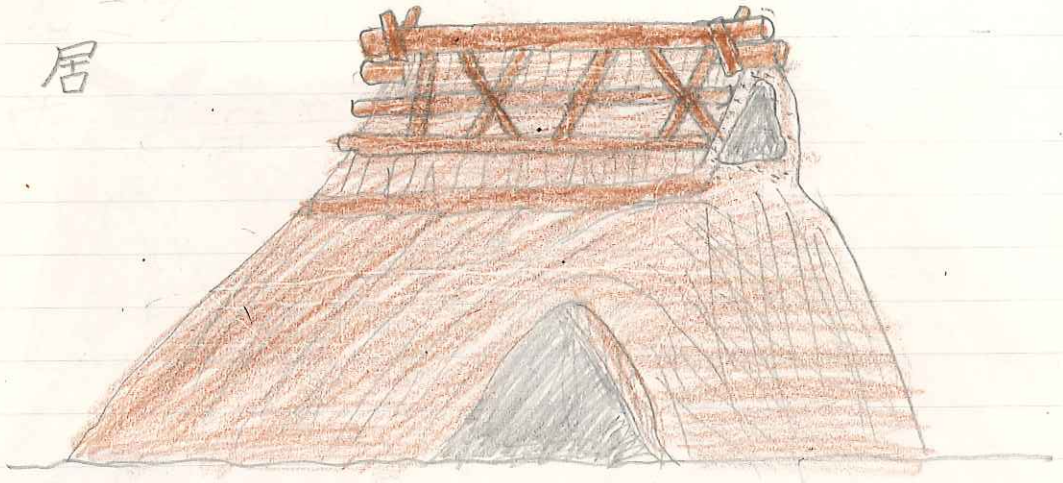
No.

9

Date

縄文時代

住居



縄文時代の住居は、同じ住居が集まって一つの村だった。

そのころの人のくらし

食べ物は、けものの肉や、魚、木の実だった。

住居には、だいたい4人くらい住んでいたようだが、10人も入れる住居もあった。

住居の中には、いろりがまん中になって、柱は4本くらいだった。

住

居

弥生
時代

やはりこのころの時代も、同じ住居が集まってできた村だった。

そのころの人のくらし

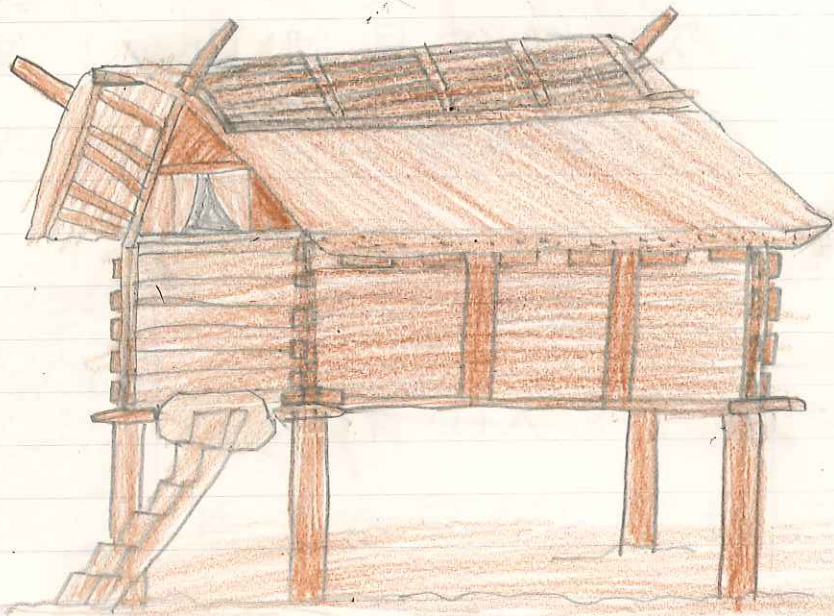
食べ物はこんどは米作りがさかんになってきて主食とされてきた。

家の人数は4〜5人ぐらい。

住

居

(穀物倉)



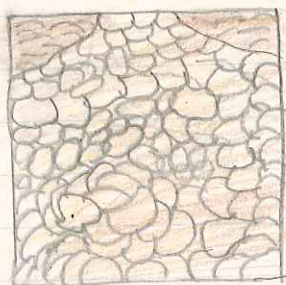
穀物倉は、米など、来年のための
もみを湿気から防せぐために高床式
にし、柱にはねずみ返しという板を
はめてねずみが登ってこれないよう
にするようになっている。

(山形市では、嶋遺跡に跡が有る。)

貝塚

塚

貝塚は山形県では吹浦貝塚が有名だったが、今は無いようだ。



《貝塚》

大昔の人々が食べて捨てた貝がらが積ってできた所です。貝塚からは、骨角器や石器、土器などが出土しています。

矢じり



約 2cm

釣ばり



約 6cm

日本で初めて発見されたのが大森貝塚。(外人によって発見された。)

かま跡



かまは、庄内地方、それから山市などで見られているが、ほとんど平安時代のもので、食器にあたる物などが出土している。

古

墳

(山形市)

高

原

古

墳

(山形市 高原町)

扁平な斜長流紋岩六枚を並べ置いた面が露出しているが、昭和 24 年の発見、当時は 70～90cm の盛土におおわれていた。蓋石の下にある斜長流紋岩を用いて築いた石槨は、長い矩形で、長軸を北々東から南々西に向ける。長さ 2.58m、はば 0.69m。

底には平たい小石を約 3cm の厚さにしきつめ、これにねん土を置いて防水床を形造る。遺物は伝えるものがない。

後期古墳 7～8 世紀の 1 例であろうが、この種のものとしては保存度も良く、また例の少ない大きさである。

調

査

わかったこと

1. 小高い丘の上にあって、棺は石で作られていた。

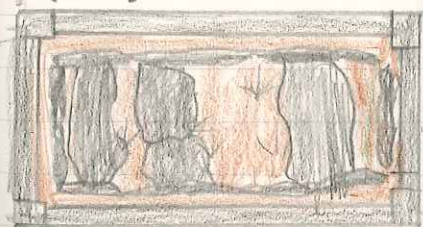
2. 出土した副葬品はないことがわかった。

感想

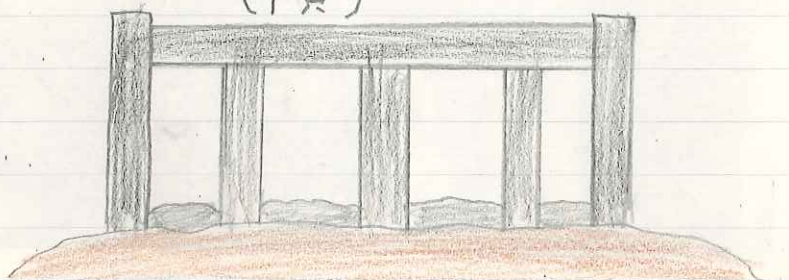
1. 丘に登る時の坂が急だったので、石などを運ぶのが大変じゃなにかと思いました。

2. 古墳が円墳かどうかはわからないけれども、ぼくは円墳じゃなにかと思いました。

(上)



(横)



古墳
上ノ原古墳

(山形市)
(高原町)

わかったこと

1. 高原古墳 上ノ原 古墳 (石棺)

と同じで、

中からは

副葬品が

出土してい

なくて、それ

に、骨も出

土していな

いことがわ

かった。



高原古墳 (石棺)



古墳 (山形市)
谷柏古墳群 (大字谷柏)

昭和26年5月、かいこ作業中に石櫃らしいものの発見されたことがきっかけとなり、その後次々に数を増し、現在は20基に近い群集墳となっている。

1例として、5号墳を見ると、板状の石英粗面岩12枚を立てて並べて、細長い石櫃の周壁を造りその床面には、板石を敷き並べ蓋石には大形の板石数枚を用い、それらの石間のすきまには白ねん土を以て目張りしてある。

その大きさは長さ181.8m、はば48.5m、深さ24.2mで、その長軸をほぼ南北にむけている。

次ページ

被葬者は、この中に収められたが、他に副葬品として長さ78.8cmの鉄剣が両壁に架してあった。

この石組の上に封土がもられて円墳をなしていたが、その直径10mをこえていたようである。

他の石櫃もこうぞう、大きさにはほとんど同様であるが、しかし長軸の向け方はさまざまである。

副葬品は極めて少ないが、第7号墳からは、鉄金釵が発見されている。

築造の年代は、げんみつには多少のちがいはあるかもしれないが、多くは古墳後期、あるいは八世紀に属するものと思われる。

調

査

わかったこと

1. この古墳は、一つの丘に、^(石棺)ちっすう、
2ヶ所にあって、正面に2つ、後ろに
3つあることがわかった。
2. 剣が出土したことがわかった。

感想

1. ここの山に登る時も、坂が急だ
ったので登る時は大変だったん
じゃないかと思いました。
2. 1度にたくさんの石棺が見つか
るなんてめずらしいと思いました。



石 棺

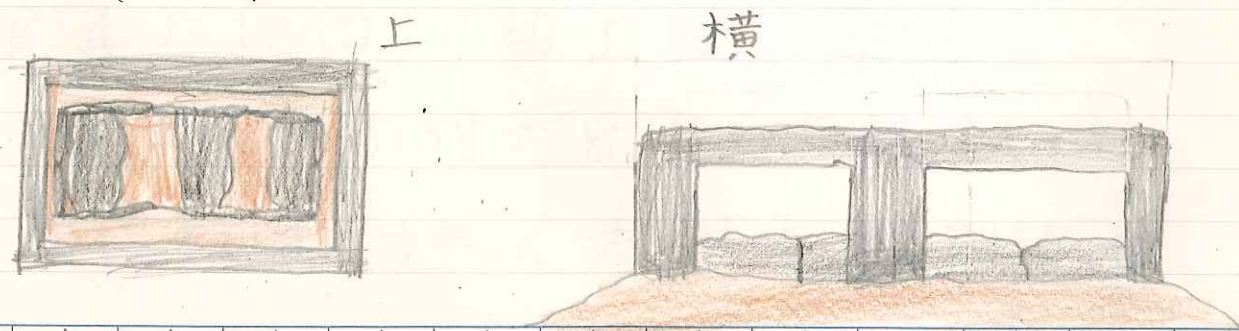
古 墳 (山形市)
衛 宇 塚 古 墳 (七 浦)

石 棺



わかったこと

ここの古墳は石棺の蓋石が
とられていて中が良く見えて、中
はちょうど人が1人入れるくらい
でした。



古墳群 菅沢古墳群

80m程はなれ南北に2号墳、1号墳がならんでいる。

2号墳は西半分が変形しましたが、地山の高みを利用して作られた円墳である。

2段づくりで下段は高さ1m、底径5.6m、この上に上段がのっているがその底径3.4m高さ3.5mの土饅頭である。遺体はその土饅頭の頂上にほうむられたのだろうが、その部分はくずされて原形がなくなっている。

下段の周囲にはば4mの周溝があり、墳丘上には下段上段に各々1めぐりづつはにわの列がめぐらされていた。

はにわははへんだけだが、円筒、家、

石 棺



小学校国語辞典

馬、たて、つるぎ、きぬがさなど色々な形があったようである。

これだけ壮大にかざられた古墳は県内に他に例がない。

六世紀頃の豪族の墓でしょうが豪族の氏名は分かってはいない。

なお、1号墳も円墳ですが、少し小さく径27mほどで墳丘は埴輪葺石で被われていたようである。

2号墳



埴輪

大昔、えらい人の墓の周りにうめた物で、土を焼いて、人・動物・家・道具などの形に作った焼き物。

言周

査

わかったこと

1. この古墳もやはり小高い岡の上にあって地上を見わたせるようになっていた。

2. 石棺は、今までの古墳の石棺と同じ形だった。

感想

1. 埴輪がたくさん出土したみたいだから、この古墳の中に葬られた人は豪族の中でもえらかったんじゃないかと思いました。

2. 山形市の古墳は、六世紀ごろの物が多いと思いました。

住 居

牧 野 遺 跡

わかったこと

1. ここは、今遺跡の上には工場がたっていて、かつてに入っていくことは出来無いけれど、出土する物がまだあることがわかった。

感 想

1. もうたて物がたっているけれど、まだ出土するそうだからもったいないなあと思いました。

住居 (山形市)
嶋遺跡 (大字江俣)

山形市嶋遺跡では、倉庫のあとが5個、家の跡が5個かくにんされた。倉庫は弥生時代の高床式にしている。

柱には、下からネズミが登れないように、長四角の形をしたネズミ返しがついていた。家は、まだ現在のようには床はなく、地面に敷き物を敷いた竪穴式のものである。その大きさは正方形または長方形で面積 $20m^2$ から $25m^2$ である。それは数人の小家族が住む家であろう。

調

査

わかったこと

1. この遺跡は、住居とそう庫があって、この住居は、奈良時代に作られたことがわかった。
2. 建物の跡に、柱の跡があったので高床式だったことがわかった。

感想

1. 奈良時代に造られた物だから、豪族が住んでいたのかもしれないと思いました。
2. 遺跡のわきの、水田の水路から、土器をとってきたので良かった。



全

景



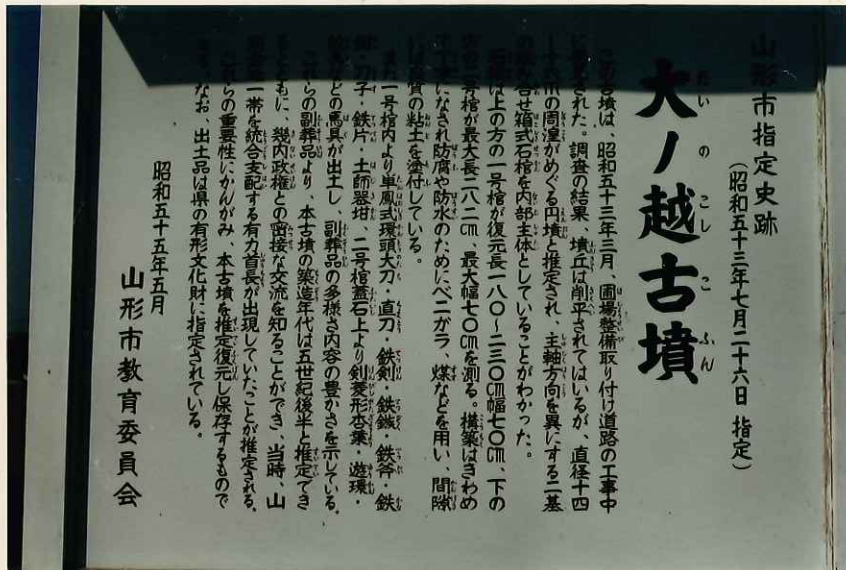
古

墳

(山形市)

大ノ越古墳

(門伝)



出土品

1号墳 単鳳式環頭大刀、直刀、鉄刀、鉄鍬、鉄斧、鉄鉗、刀子、鉄片、土師器埴

2号墳 剣びし形杏葉、遊環、紋具

これらの副葬品により、本古墳の築造年代は五世紀後半と推定できるとともに、畿内政権との密接な交流を知ることができる。

わかったこと

出土した

1、鉄製品の剣やおの、矢じり、よろいの他、環頭太刀は、手にぎる所に、鳳凰のかざりがついていたことがわかった。

2、けっこう、円墳としては大きく、石棺は、中部よりずれた所にあったのがわかった。

3、この古墳の持ち主は、大和朝廷と交流して山形盆地一帯を統合支配していた豪族で、有力だったことがわかった。

感想

1、この古墳は、円墳としては大きく、副葬品も山形ではめずらしい物がたくさん出土したんだなあと思いました。

No.

Date



Campus[®]

NOTEBOOK

Campus notebooks contain the best ruled foolscap suitable for writing.

A 普通横罫

敬学会研究

ノート

6,2 小山英宏

土矢倉古墳

古代歴史をものがたる土矢倉古墳は、東西に長い舌状台地に高塚式の3基からなり、東から1号、2号、3号と称している。

それぞれ墳丘の大きさや 状及び造営年代を甲にするが古槨(石棺)、葦石(土止用石)、周湟(壕)、埴輪、副葬品は各古墳に認められました。

頂上近くに堅穴式にしてあり、1号墳は柱状に節理する石英粗面岩をもつて構築され、その内部は白粘土で化粧し、その上に朱がぬられており副葬品として土器、鉄製品、編物などが出土している。空堀的な周湟内に立て置かれた物と推定される。

2号墳の前方後円墳は、北限(うら日本)にあたり県内推一の例である。

3基の規模からいっても県内ではもっとも古いようそをもつもので六世紀後半に造営された物と推定される。

復元にあたって、1号、3号墳の周湟を砂利敷としてあられ、2号墳は1部砂利敷として他は略した。

単位(m)

3号墳	2号墳	1号墳		
円墳	前方後円墳	円墳	外形	墳
3	4	25	高さ	
底径15.2	前方部径は13.5? 後部径10.7	底径13	大さ	
有	有	有	葺石	丘
1.5	1.5?	0.2	墳丘から石櫛 までの深さ	
堅穴式	堅穴式	堅穴式	形態	石
2.00?	3.63	2.80	長さ	
0.60?	0.66	0.57	幅	櫛
0.30?	0.66	0.40	深さ	
北西-南東	東-西	東-西	長軸方向	
1.9	3	1.7	内径	周
1.7~2.4	3~4	2.1	幅	
0.7~1.0	0.7~1.2	0.4	深さ	
				湟

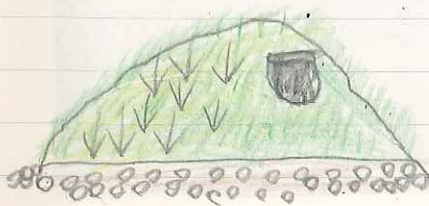
わかったこと

1. ぼくは、山形県には前方後円墳は無いと思っていたけれども、この土屋倉古墳があることがわかりました。
2. 鉄製品が古墳の中におさめてあるのはわかるけれど、編物が出てきたのがわかりました。

感想

1. 丘のわきを見ると、1つの前方後円墳に、3つの円墳があるみたいでした。
2. 上山の豪族は、ぎ術をとりいれた人たちだったんじゃないかと思いました。

1号墳



1号墳



2号墳

3号墳



住居 (向町) 水上遺跡

縄文時代の中期から晩期(今から約5000年から2000年くらい前)約3000年もの間私たちの祖先にあたる古代の人々が生活をした場所にあたります。

20近くの住居及び土壇(墓地)が発見され、数多くの土器や石器が出土しました。 形 堅穴式住居(円形、楕円形)

わかったこと

1. この遺跡は、3000年もの間ずっとかわれていて、土器などがきれいに出土したことがわかった。

感想

1. 住居の中に入ってみると、4〜5人くらいくらせるようになっていたんだけど、これではせいぜい人ではないかと思は

した。

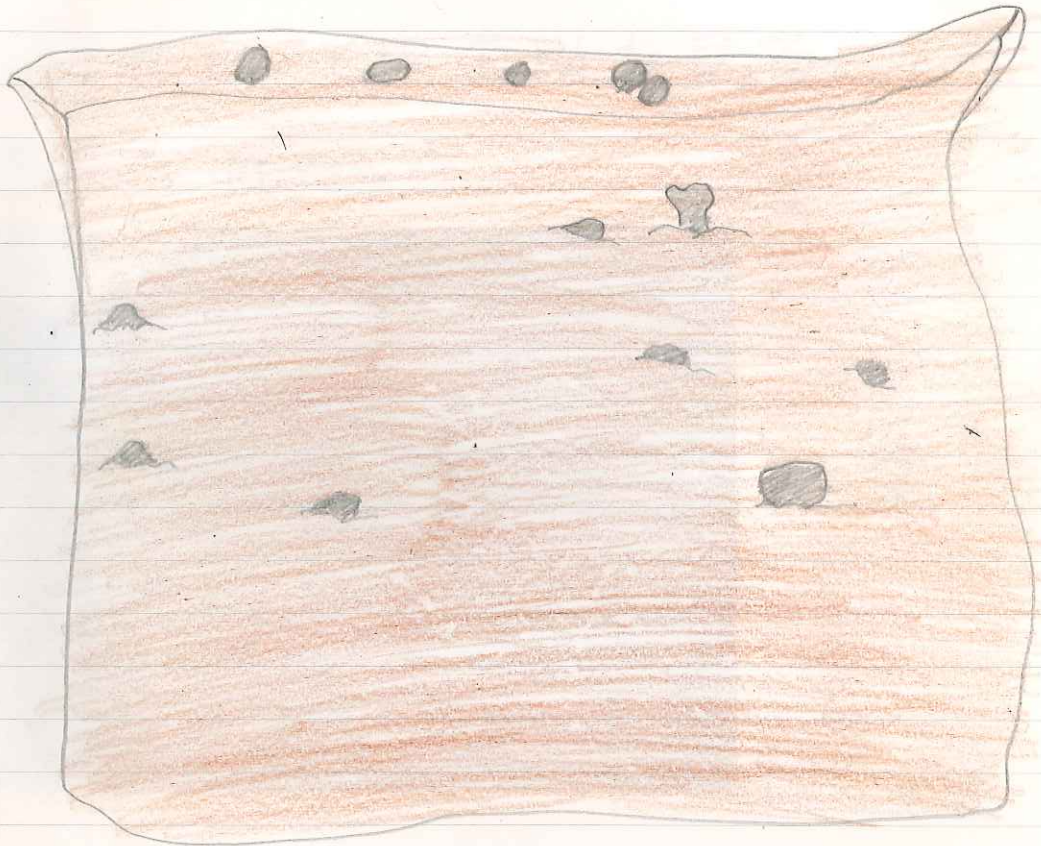


住居



住 居 (向町)
宮, 下 遺 跡

この遺跡はまだ発くつ中だった。



わかったこと

1. 発くつをするようすなどがわかった。
2. 土器や、いろいろのような物が出土しているのなどがわかった。

感想

1. 発くつをしている所はみられなかったけれど、と中の所を見ることが出来たので良かった。



発くつ風景



遺跡 貝塚 (吹浦) 吹浦石器時代遺跡

この遺跡は、縄文時代(前期末)の洞窟、堅穴式住居、小貝塚等の複合遺跡で、出土した縄文式土器は3種類に区分される。細長い器台のような底部をもつ鉢形、胴部のふくれている円筒形のものも等地方的特色をもっており総称して吹浦式土器と呼ばれている。

出土した物

石鏃、石槍、石べら、石錐、磨製石斧、耳飾、石埴曲玉等

炉址から

煮沸用土製品

わかったこと

1. この遺跡からは、この地方独特の縄文式土器『吹浦式土器』があったことがわかった。

2. この住居跡は丘の上にあっても広いはく土にあったことがわかりました。

感想

1. 貝塚が今はもうこわされていないようなのでもったいないなあと思いました。

2. 柱の跡の穴がたくさんあったので、この村にはたくさんの住居があったのがわかった。



景風跡遺

有形文化財史跡 吹浦石器時代遺跡

昭和28年5月25日 指定

吹浦遺跡は、大字吹浦字堂屋にあり、昭和26年から27年にかけて発掘調査が行なわれ、その全ぼうが明らかにされた。この遺跡は縄文時代（前期末）の洞窟、竪穴住居小貝塚等の複合遺跡で、出土した縄文式土器は3種類に区分される。細長い器台のような底部をもつ鉢形、胴部のふくれている円筒形のもの等地方的特色をもっており総称して吹浦式土器と呼ばれている。石鏃、石槍、石べら、石錐、磨製石斧等のほか耳飾、石始曲玉等が出土し、また炉址から、煮沸用土製品と思われるものが発見された。縄文前期に属する貴重な遺跡として県の指定をうけている。

昭和46年4月1日

遊佐町教育委員会



(向町)

森、越 遺跡

この遺跡も畚くつ中で、昔から畑を
たがやしていると矢じりなどが多く見
つかったそうである。

遺跡 風景



感想

1. 矢じりなどが出てくると言うので、ここ
は、狩りをしたりした後のかい体をする
所だったんじゃないかと思いました。

まとめ

No. 42

Date

調べたことの結果

予想

(1) 住んでいるたて物。

堅穴式住居。

結果 堅穴式住居

(2) どんな物を食べていたか。

肉や角、木の実。

結果 米や貝(弥生時代)

(3) 1つの住居に何人住んでいたか。

約4人

結果 4〜5人

(4) どんな道具を使っていたか。

石器や土器

結果 石器、土器、かま

(5) どんな形の古墳が多いか。

円墳、方墳

結果 円墳

(6) 石室の中にはどんな物を入れたか。

宝石、土器、鉄製品

結果 土器、鉄製品

1. 出土した土器 (くも、て来た土器)

吹浦

遺跡



水上

遺跡



宮下
遺跡



嶋
遺跡



2. 発くつ中の遺跡 (宮下遺跡)





土器
→



感

想

として来た土器、発くつ中の遺跡を見て。

- 1、土器は、遺跡に行くと、落ちていて探しやすいけれども、石器はもとを見つけるのがむずかしいようでした。
- 2、発くつ中の遺跡に行って来てわかったことは、土をていねいに少しずつほりだしていたことがわかりました。
- 3、土器のはへんをよく見ると、新しいのと古いのとがわかることがわかりました。

使った本の名前

番号	本名	筆者
1	社会料資料集	小学校社会料研究会
2	山形県の文化財	山形県教育委員会
3	山形市の文化財	山形市教育委員会
4	昔の歴史	豊田武
5	小学国語辞典	石黒修

手伝ってくれた人

会田先生、父、母、弟

反省

1. もっといきたい所があったのに、いけなくなってしまったので悪かった。
2. 土器のはへんをたく山持ってこられたり、発くつと中の所を見られたりしたのでよかった。
3. 計画をうまく、早く実行出来なかったのもので悪かった。

1. 昨年に続いて、同じ研究をしたんだけれども、昨年より遺跡にたくさん周ることが出来たので良かったと思いました。

2. 市内にはあまり古墳などはないだろうと思っていたけれども、けっこうあるんだなあ、と思いました。

3. 嶋遺跡のわきを流れる用水路に、手を入れると、土器のはへんが出てきたりしたので、周りにある田からも、やはり前々から出てきていたんだろなあ、と思いました。